

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H02646

研究課題名（和文）データマイニングと疾患モデルによる感染症と大動脈疾患の包括的な連関解明

研究課題名（英文）Elucidation of the relationship between infectious diseases and aortic diseases by big data analysis and in vivo experiments

研究代表者

石澤 啓介 (ISHIZAWA, Keisuke)

徳島大学・大学院医歯薬学研究部（医学域）・教授

研究者番号：60398013

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,400,000円

研究成果の概要（和文）：フルオロキノロン系抗菌薬は大動脈疾患の発症リスクが知られているが、近年、その認識を覆す報告が散見されている。そこでフルオロキノロンが大動脈疾患のリスクを増加させるか否か検討した。その結果、レボフロキサシンはin vitroでは内皮細胞障害をもたらす細胞外基質分解酵素を増加させた。しかしin vivo試験ではエラスチン分解や大動脈解離発生率に有意な影響は認められなかった。グローバル安全性データベースであるVigiBase解析の結果、フルオロキノロンにより大動脈瘤のリスク増大は示唆されたが、解離の有意なリスクシグナルは認められず、レセプトデータベース解析においても同様の結果が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

基礎薬理学研究から、in vitroとin vivoでLVFXが異なる作用を示していることが示された。さらに大規模医療情報データベースの解析において、フルオロキノロンは大動脈瘤に対しては確かにリスクシグナルが検出されたが、大動脈解離との関連は認めなかった。以上の2つの矛盾点が、ここ数年両者の関連について議論され、多くの相反する研究結果を生み出していた原因であると推察された。感染や炎症、その他の背景となる病態がフルオロキノロンの作用に及ぼす影響などさらなる詳細な検討が必要ではあるが、少なくとも実臨床において、大動脈解離発症を懸念してフルオロキノロン系抗菌薬の使用を控える必要はないことが示唆された。

研究成果の概要（英文）：Fluoroquinolone antimicrobials are known to be associated with a risk of developing aortic disease, but in recent years, there have been scattered reports that challenge this perception. We therefore examined whether fluoroquinolone antibacterial agents increase the risk of aortic dissection. We found that levofloxacin (LVFX) caused endothelial cell damage in vitro and increased extracellular matrix degrading enzymes. However, in vivo studies showed no significant effects on elastin degradation or aortic dissection incidence. VigiBase analysis, a global safety database, suggested an increased risk of aortic aneurysm with fluoroquinolones, but no significant risk signal for aortic dissection, which was supported by the findings in the receipt database.

研究分野：臨床薬理学

キーワード：大動脈解離 大動脈瘤 医療ビッグデータ 感染症 抗菌薬

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) をはじめ細菌やウイルス感染を契機とした血管内皮障害が血管壁での炎症を惹起し、感染性大動脈瘤などの大血管疾患の発症を併発する可能性について、これまでに示唆されている。

一方で、細菌感染症治療に用いられるフルオロキノロン系抗菌薬が大動脈解離や瘤の発症リスクを上昇させることが疫学研究により明らかになった (JAMA Intern Med. 2015;175:1839-47.) (BMJ. 2018;360:k678.)。アメリカ食品医薬品局 (FDA) では2018年12月に、本邦においても2019年1月に厚生労働省が、重大な副作用として追加し、大動脈疾患のリスクが高いと考えられる患者への投与に注意を喚起している。しかしながら、この根拠となる複数の臨床研究からも「抗菌薬投与による有害事象として発生したものか」あるいは「感染症に起因する合併症なのか」は判断ができず、因果関係は定かでない。さらに発生率が他の有害事象に比較して低いことから、疫学や病態に関して十分な知見が得られていないのが現状である。

したがって、感染症に関連する大動脈疾患発症の現状把握と病態解明は、より安全な感染症治療を実現する上で重要な課題である。

2. 研究の目的

感染症に関連して発症する大動脈疾患の真のリスクファクター、すなわち『感染症が原因か?あるいは薬物治療の副作用か?』を明らかにすることを目的として本研究を行なった。とくに、大動脈解離の有害事象リスクが警告されているフルオロキノロン系抗菌薬のうち使用頻度の高いレボフロキサシン (LVFX) に着目して研究を行なった。

3. 研究の方法

(1) 培養細胞における LVFX の作用

血管構成細胞である培養ヒト血管平滑筋細胞、培養ヒト血管内皮細胞に LVFX を投与し、細胞障害に及ぼす影響を検討した。ヒト大動脈平滑筋細胞 (HASMCs) においては細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinases: MMPs) の発現に対する LVFX の影響をリアルタイム rt-PCR またはウエスタンブロッティング法にて検討した。ヒト臍帯静脈内皮細胞 (HUVEC) では内皮傷害マーカーである各種接着分子、一酸化窒素合成酵素 (eNOS) などの発現をリアルタイム rt-PCR にて検討した。

(2) 大動脈解離モデルマウスに対する LVFX の作用

野生型 C57Bl/6J マウスに、内皮細胞障害を引き起こす一酸化窒素合成阻害剤、血圧上昇をきたすアンジオテンシン II、中膜弾性板の変性崩壊を誘発するリジルオキシダーゼ阻害剤の3剤を投与することによって、大動脈解離の発症を惹起するモデルマウス、LAB マウスを作成した。LAB マウスに LVFX を連日投与することで、発症率および血管病変に影響を及ぼすか否かを検討した。

(3) リポポリサッカライド (LPS) 誘発敗血症モデルに対する LVFX の影響の検討

HUVEC において LPS による内皮細胞障害に対して LVFX がどのように影響を及ぼすか共処置によって検討した。また、LPS を腹腔内投与し敗血症モデルを作成したマウスに LVFX を前投与し、血管障害に対する LVFX の影響を評価した。

(4) 医薬品副作用自発報告データベース VigiBase 解析

WHO が世界各国から集積した有害事象自発報告データベースである VigiBase を用いて、各種抗菌薬などの投与によって、大動脈疾患発症が増加するか否かについて解析する。

(5) 日本の診療報酬情報データベースである JMDC receipt database を用いてフルオロキノロン系抗菌薬の投与歴と大動脈疾患発症の連関解析を行う。

4. 研究成果

近年、薬剤と動脈疾患との関連を示す報告が増えている。幅広い感染症に使用されるフルオロキノロン系抗菌薬が大動脈瘤や解離の発症を誘発する可能性が報告され、2018年以降、アメリカ食品医薬品局や厚生労働省から重篤な有害事象として警告が出されている。一方でその発症リスク上昇は、感染症等患者背景の交絡に起因するとの報告もあり、フルオロキノロン系抗菌薬の大動脈瘤・解離に対する影響については未だ議論が続いている。これまでの報告は多くが大動脈瘤と大動脈解離を区別せず一つの疾患として解析、議論しているが、大動脈解離には内皮障害の寄与が重要であることから、瘤と解離は異なる病態と考えられる。そこで研究代表者は、真にフルオロキノロン系抗菌薬が大動脈疾患、特に大動脈解離のリスクがあるか否かを明らかにするため、基礎薬理学的手法および大規模医療情報データベース解析を用いて検証を行った。

フルオロキノロン系抗菌薬の一つである levofloxacin (LVFX) の大動脈疾患に対する影響を明らかにするため、in vitro および in vivo にて検討を行った。LVFX はヒト大動脈平滑筋細胞における matrix metalloproteinase (MMP) 発現を有意に上昇させた。またヒト臍帯静脈血管内皮細胞において、LVFX は内皮障害の指標である vascular cell adhesion molecule-1 (VCAM-1) の mRNA 発現を上昇させ、さらに、lipopolysaccharide (LPS) により誘導された VCAM-1 の発現上

昇を増悪させた。しかしながら *in vivo* 実験では LVFX は大動脈解離易発症モデル (LAB) マウスの解離発症率に影響を及ぼさなかった。また LVFX は LAB マウスで上昇した MMP 酵素活性・血中 MMP 蛋白量を増加させないことを確認した。さらに、LVFX が LAB マウスにおける内皮障害に与える影響を検討したところ、解離未発症の LAB マウスでは LVFX 投与群において VCAM-1 発現上昇傾向を示したが、解離を生じた群では抑制する傾向にあった。LPS 誘発炎症モデルマウスにおいても、内皮障害と炎症が LVFX 投与により有意に抑制された。以上の *in vitro* と *in vivo* の矛盾する結果から、細胞レベルで認められる LVFX の血管障害作用が、生体内では血管構成細胞以外に与える影響や代償機構等により、打ち消される可能性が示唆された。

次にデータベース解析を用いて、実臨床でのフルオロキノロン系抗菌薬による大動脈疾患への影響を検証した。世界保健機関の有害事象自発報告データベース VigiBase を用いた解析では、フルオロキノロン系抗菌薬の使用と大動脈瘤には関連が認められたが、大動脈解離では関連を認めなかった。日本の JMDC から購入した診療報酬情報データベースを用いて呼吸器感染症例を対象に後ろ向きコホート研究を行ったところ、フルオロキノロン系抗菌薬の使用は大動脈解離の発症率を悪化させるとは言えなかった。

本研究より、基礎薬理学研究からは、*in vitro* と *in vivo*、または解離発症の前と後で LVFX が異なる作用を示しうることが示された。さらに、これまでフルオロキノロン系抗菌薬による大動脈疾患リスクの強力な根拠と思われていた大規模医療情報データベースの解析において、フルオロキノロン系抗菌薬は大動脈瘤に対しては確かにリスクシグナルが検出されたが、大動脈解離との関連は認めなかった。以上の2つの矛盾点が、ここ数年両者の関連について議論され、多くの相反する研究結果を生み出していた原因であると推察された。感染や炎症、その他の背景となる病態がフルオロキノロン系抗菌薬の作用に及ぼす影響などさらなる詳細な検討が必要ではあるが、今回の我々の研究結果から、少なくとも実臨床において、大動脈解離発症を懸念してフルオロキノロン系抗菌薬の使用を控える必要はないと考えられる。上記研究結果について現在投稿準備中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 41件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 18件）

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 Mitsuboshi S, Niimura T, Kanda M, Ishida S, Zamami Y, Ishizawa K | 4. 巻 56 |
| 2. 論文標題 Risk of Hematologic Events With Coadministration of Methotrexate and the Breast Cancer Resistance Protein Inhibitor Febuxostat | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Annals of Pharmacotherapy | 6. 最初と最後の頁 910 ~ 915 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/10600280211055794 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 Uchida M, Ushio S, Niimura T, Takechi K, Kawazoe H, Hidaka N, Tanaka A, Araki H, Zamami Y, Ishizawa K, Kitamura Y, Sendou T, Kawasaki H, Namba H, Shibata K, Tanaka M, Takatori S | 4. 巻 45 |
| 2. 論文標題 Renin-Angiotensin-Aldosterone System Inhibitors Prevent the Onset of Oxaliplatin-Induced Peripheral Neuropathy: A Retrospective Multicenter Study and in Vitro Evaluation | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Biological and Pharmaceutical Bulletin | 6. 最初と最後の頁 226 ~ 234 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b21-00852 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 Mitsuboshi S, Niimura T, Aizawa F, Goda M, Zamami Y, Ishizawa K | 4. 巻 130 |
| 2. 論文標題 Atenolol and mortality events in patients with chronic kidney disease: Analysis of data from the Japanese Adverse Drug Event Report database | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology | 6. 最初と最後の頁 553 ~ 556 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bcpt.13717 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------------|
| 1. 著者名 Zamami Y, Niimura T, Kawashiri T, Goda M, Naito Y, Fukushima K, Ushio S, Aizawa F, Hamano H, Okada N, Yagi K, Miyata K, Takechi K, Chuma M, Koyama T, Kobayashi D, Shimazoe T, Fujino H, Izawa-Ishizawa Y, Ishizawa K | 4. 巻 148 |
| 2. 論文標題 Identification of prophylactic drugs for oxaliplatin-induced peripheral neuropathy using big data | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Biomedicine & Pharmacotherapy | 6. 最初と最後の頁 112744 ~ 112744 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.biopha.2022.112744 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Chuma M, Nakamoto A, Bando T, Niimura T, Kondo Y, Hamano H, Okada N, Asada M, Zamami Y, Takechi K, Goda M, Miyata K, Yagi K, Yoshioka T, Izawa-Ishizawa Y, Yanagawa H, Tasaki Y, Ishizawa K | 4. 巻 75 |
| 2. 論文標題 Association Between Statin Use and Daptomycin-related Musculoskeletal Adverse Events: A Mixed Approach Combining a Meta-analysis and a Disproportionality Analysis | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Clinical Infectious Diseases | 6. 最初と最後の頁 1416 ~ 1422 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cid/ciac128 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Sakurada T, Nokihara H, Koga T, Zamami Y, Goda M, Yagi K, Hamano H, Aizawa F, Ogino H, Sato S, Kirino Y, Goto H, Nishioka Y, Ishizawa K | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 Prevention of Pemetrexed-Induced Rash Using Low-Dose Corticosteroids: A Phase II Study | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 The Oncologist | 6. 最初と最後の頁 e554 ~ e560 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oncolo/oyab077 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名 Kanda M, Goda M, Maegawa A, Yoshioka T, Yoshida A, Miyata K, Aizawa F, Niimura T, Hamano H, Okada N, Sakurada T, Chuma M, Yagi K, Izawa Ishizawa Y, Yanagawa H, Zamami Y, Ishizawa K | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 Discovery of preventive drugs for cisplatin induced acute kidney injury using big data analysis | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Clinical and Translational Science | 6. 最初と最後の頁 1664 ~ 1675 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cts.13282 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------------|
| 1. 著者名 Yagi K, Sato Y, Sakaguchi S, Goda M, Hamano H, Aizawa F, Shimizu M, Inoue-Hamano A, Nishimori T, Tagi M, Kanno M, Matsuoka-Ando R, Yoshioka T, Matstubara Y, Izawa-Ishizawa Y, Shimizu R, Maruo A, Kuniki Y, Sakamoto Y, Itobayashi S, Zamami Y, Yanagawa H, Ishizawa K | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 A web-based survey of educational opportunities of medical professionals based on changes in conference design during the COVID-19 pandemic | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Education and Information Technologies | 6. 最初と最後の頁 10371 ~ 10386 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10639-022-11032-5 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------------|
| 1. 著者名 Nishiuchi S, Yagi K, Saito H, Zamami Y, Niimura T, Miyata K, Sakamoto Y, Fukunaga K, Ishida S, Hamano H, Aizawa F, Goda M, Chuma M, Izawa-Ishizawa, Nawa H, Yanagawa H, Kanda Y, Ishizawa K | 4. 巻 928 |
| 2. 論文標題 Investigation of drugs for the prevention of doxorubicin-induced cardiac events using big data analysis | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 European Journal of Pharmacology | 6. 最初と最後の頁 175083 ~ 175083 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ejphar.2022.175083 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Yamada H, Ohmori R, Okada N, Nakamura S, Kagawa K, Fujii S, Miki H, Ishizawa K, Abe M, Sato Y | 4. 巻 22 |
| 2. 論文標題 A machine learning model using SNPs obtained from a genome-wide association study predicts the onset of vincristine-induced peripheral neuropathy | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 The Pharmacogenomics Journal | 6. 最初と最後の頁 241 ~ 246 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41397-022-00282-8 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------------|
| 1. 著者名 Okada N, Murakami A, Sato M, Nakamura S, Fujii S, Sogabe K, Takahashi M, Okada A, Abe A, Fujii H, Abe M, Azuma M, Ishizawa K | 4. 巻 76 |
| 2. 論文標題 First reported case of Lachnoanaerobaculum gingivalis bacteremia in an acute myeloid leukemia patient with oral mucositis during high dose chemotherapy | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Anaerobe | 6. 最初と最後の頁 102610 ~ 102610 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anaerobe.2022.102610 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------------|
| 1. 著者名 Okada N, Takahashi M, Yano Y, Sato M, Abe A, Ishizawa K, Azuma M | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 Hospital outbreak of extended-spectrum beta-lactamase-producing Escherichia coli potentially caused by toilet and bath chair use | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Infection Prevention in Practice | 6. 最初と最後の頁 100239 ~ 100239 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.infpip.2022.100239 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Nawa H, Hamano H, Niimura T, Miyata K, Yagi K, Goda M, Zamami Y, Ishizawa K | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 Evaluation of the potential complication of interstitial lung disease associated with antifibrotic drugs using data from databases reporting spontaneous adverse effects | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Clinical and Translational Science | 6. 最初と最後の頁 2982 ~ 2988 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cts.13419 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名 Okada N, Azuma M, Tsujinaka K, Abe A, Takahashi M, Yano Y, Sato M, Shibata T, Goda M, Ishizawa K | 4. 巻 11 |
| 2. 論文標題 Clinical Impact of a Pharmacist-Driven Prospective Audit with Intervention and Feedback on the Treatment of Patients with Bloodstream Infection | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Antibiotics | 6. 最初と最後の頁 1144 ~ 1144 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/antibiotics11091144 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 Chuma M, Hamano H, Bando T, Kondo M, Okada N, Izumi Y, Ishida S, Yoshioka T, Asada M, Niimura T, Zamami Y, Takechi K, Goda M, Miyata K, Yagi K, Kasamo S, Izawa Ishizawa Y, Azuma M, Yanagawa H, Tasaki Y, Ishizawa K | 4. 巻 131 |
| 2. 論文標題 Non recovery of vancomycin associated nephrotoxicity is related to worsening survival outcomes: Combined retrospective analyses of two real world databases | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Basic Clin Pharmacol Toxicol | 6. 最初と最後の頁 525 ~ 535 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bcpt.13799 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Niimura T, Zamami Y, Miyata K, Mikami T, Asada M, Fukushima K, Yoshino M, Mitsuboshi S, Okada N, Hamano H, Sakurada T, Matsuoka Ando R, Aizawa F, Yagi K, Goda M, Chuma M, Koyama T, Izawa Ishizawa Y, Yanagawa H, Fujino H, Yamanishi Y, Ishizawa K | 4. 巻 63 |
| 2. 論文標題 Characterization of Immune Checkpoint Inhibitor-Induced Myasthenia Gravis Using the US Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 The Journal of Clinical Pharmacology | 6. 最初と最後の頁 473 ~ 479 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jcph.2187 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Ando Matsuoka R, Yagi K, Takaoka M, Sakajiri Y, Shibata T, Sawada R, Maruo A, Miyata K, Aizawa F, Hamano H, Niimura T, Izawa Ishizawa Y, Goda M, Sakaguchi S, Zamami Y, Yamanishi Y, Ishizawa K | 4. 巻 84 |
| 2. 論文標題 Differential effects of proton pump inhibitors and vonoprazan on vascular endothelial growth factor expression in cancer cells | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Drug Development Research | 6. 最初と最後の頁 75 ~ 83 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ddr.22013 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Okada N, Taro S, Ando H, Nakamura S, Goda M, Abe M, Kitahara T, Ishida T, Ishizawa K | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Clinical Impact of Antipolyethylene Glycol (PEG) Antibody in Hematological Patients Administered PEGylated Granulocyte Colony Stimulating Factor | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Clinical Pharmacology in Drug Development | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cpdd.1225 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Yagi K, Maruo A, Ishida S, Aizawa F, Ushio S, Sakaguchi S, Kajizono M, Niimura T, Goda M, Hamano H, Izawa-Ishizawa Y, Zamami Y, Ishizawa K | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Effects of vonoprazan and proton pump inhibitors on the efficacy of bevacizumab: a multicentre retrospective study | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Clinical and Experimental Medicine | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10238-023-01008-1 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Mitsuboshi S, Hamano H, Kuniki Y, Niimura T, Chuma M, Ushio S, Lin TJ, Matsumoto J, Takeda T, Kajizono M, Zamami Y, Ishizawa K | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Proton Pump Inhibitors and Rhabdomyolysis: Analysis of Two Different Cross-Sectional Databases | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Annals of Pharmacotherapy | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/10600280231156270 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Mitsuboshi S, Niimura T, Zamami Y, Ishizawa K. | 4. 巻 87 |
| 2. 論文標題 Differences in risk factors for anticoagulant related nephropathy between warfarin and direct oral anticoagulants: Analysis of the Japanese adverse drug event report database | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 British Journal of Clinical Pharmacology | 6. 最初と最後の頁 2977 ~ 2981 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bcp.14688 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Hamano H, Ikeda Y, Goda M, Fukushima K, Kishi S, Chuma M, Yamashita M, Niimura T, Takechi K, Imanishi M, Zamami Y, Horinouchi Y, Izawa-Ishizawa Y, Miyamoto L, Ishizawa K, Fujino H, Tamaki T, Aihara K, Tsuchiya K. | 4. 巻 99 |
| 2. 論文標題 Diphenhydramine may be a preventive medicine against cisplatin-induced kidney toxicity | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Kidney International | 6. 最初と最後の頁 885 ~ 899 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.kint.2020.10.041 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 Asada M, Mikami T, Niimura T, Zamami Y, Uesawa Y, Chuma M, Ishizawa K. | 4. 巻 99 |
| 2. 論文標題 The Risk Factors Associated with Immune Checkpoint Inhibitor-Related Pneumonitis | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Oncology | 6. 最初と最後の頁 256 ~ 259 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000512633 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Hamano H, Mitsunashi C, Suzuki Y, Zamami Y, Tsujinaka K, Okada N, Niimura T, Hayama T, Imai T, Ishida S, Sakamoto K, Goda M, Takechi K, Yagi K, Chuma M, Horinouchi Y, Shinomiya K, Ikeda Y, Kirino Y, Nakamura T, Yanagawa H, Hamada Y, Ishizawa K. | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 Effects of Palonosetron on Nausea and Vomiting Induced by Multiple-Day Chemotherapy: A Retrospective Study | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Biological and Pharmaceutical Bulletin | 6. 最初と最後の頁 478 ~ 484 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b20-00609 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Goda M, Ikehara M, Sakitani M, Oda K, Ishizawa K, Otsuka M. | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 Involvement of Human Multidrug and Toxic Compound Extrusion (MATE) Transporters in Testosterone Transport | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Biological and Pharmaceutical Bulletin | 6. 最初と最後の頁 501 ~ 506 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b20-00753 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Funahashi T, Koyama T, Hagiya H, Harada K, Iinuma S, Ushio S, Zamami Y, Niimura T, Shinomiya K, Ishizawa K, Sendo T, Hinotsu S, Kano MR. | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 Population-Based Observational Study of Adverse Drug Event-Related Mortality in the Super-Aged Society of Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Drug Safety | 6. 最初と最後の頁 531 ~ 539 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40264-020-01037-9 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------------|
| 1. 著者名 Takahashi S, Takechi K, Jozukuri N, Niimura T, Chuma M, Goda M, Zamami Y, Izawa-Ishizawa Y, Imanishi M, Horinouchi Y, Ikeda Y, Tsuchiya K, Yanagawa H, Ishizawa K. | 4. 巻 902 |
| 2. 論文標題 Examination of the antiepileptic effects of valacyclovir using kindling mice search for novel antiepileptic agents by drug repositioning using a large medical information database | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 European Journal of Pharmacology | 6. 最初と最後の頁 174099 ~ 174099 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ejphar.2021.174099 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Nawa H, Niimura T, Yagi K, Goda M, Zamami Y, Ishizawa K. | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 Evaluation of potential complication of interstitial lung disease with abemaciclib and palbociclib treatments | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Cancer Reports | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cnr2.1402 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名 Goda M, Kanda M, Yoshioka T, Yoshida A, Murai Y, Zamami Y, Aizawa F, Niimura T, Hamano H, Okada N, Yagi K, Chuma M, Izawa Y, Ishizawa Y, Ishizawa K. | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 Effects of 5-HT3 receptor antagonists on cisplatin-induced kidney injury | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Clinical and Translational Science | 6. 最初と最後の頁 1906 ~ 1916 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cts.13045 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Chuma M, Takechi K, Yagi K, Sakaguchi S, Nokihara H, Kane C, Sato Y, Niimura T, Goda M, Zamami Y, Ishizawa K, Yanagawa H. | 4. 巻 68 |
| 2. 論文標題 Academic investigators' interest in promoting specified clinical trials: Questionnaire survey before and after implementation of the Clinical Trial Act | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Journal of Medical Investigation | 6. 最初と最後の頁 71 ~ 75 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2152/jmi.68.71 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Hagiwara H, Fukuta H, Hashimoto H, Niimura T, Zamami Y, Ishizawa K, Kamiya T, Ohte N. | 4. 巻 77 |
| 2. 論文標題 A comparison of the safety and effectiveness of prasugrel and clopidogrel in younger population undergoing percutaneous coronary intervention: A retrospective study using a Japanese claims database | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Cardiology | 6. 最初と最後の頁 285 ~ 291 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjcc.2020.10.001 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Okada N, Fujiwara N, Azuma M, Tsujinaka K, Chuma M, Yagi K, Hamano H, Aizawa F, Goda M, Kirino Y, Nakamura T, Zamami Y, Hashimoto I, Ishizawa K. | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 Assessment of Adherence to Post-exposure Prophylaxis with Oseltamivir in Healthcare Workers: A Retrospective Questionnaire-Based Study | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Biological and Pharmaceutical Bulletin | 6. 最初と最後の頁 869 ~ 874 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b21-00165 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Nawa H, Niimura T, Hamano H, Yagi K, Goda M, Zamami Y, Ishizawa K. | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 Evaluation of Potential Complications of Interstitial Lung Disease Associated With Antiandrogens Using Data From Databases Reporting Spontaneous Adverse Effects | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Frontiers in Pharmacology | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphar.2021.655605 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Mitsuboshi S, Niimura T, Yoshino M, Sakamoto Y, Zamami Y, Ishizawa K. | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 Fluoropyrimidine use and hypertriglyceridemia among Japanese patients: analysis of adverse event database | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Clinical Pharmacy | 6. 最初と最後の頁 260 ~ 263 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11096-021-01324-0 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Okada N, Izumi Y, Nakamoto A, Chuma M, Goda M, Yagi K, Aizawa F, Hamano H, Zamami Y, Azuma M, Ishizawa K. | 4. 巻 43 |
| 2. 論文標題 Impact of Area Under the Concentration-Time Curve on the Prevalence of Vancomycin-Induced Nephrotoxicity in Combination With Tazobactam/Piperacillin or Cefepime: A Single-Institution Retrospective Study | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Clinical Therapeutics | 6. 最初と最後の頁 1910 ~ 1920 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clinthera.2021.09.007 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Takei M, Okada N, Nakamura S, Kagawa K, Fujii S, Miki H, Ishizawa K, Abe M, Sato Y. | 4. 巻 45 |
| 2. 論文標題 A Genome-Wide Association Study Predicts the Onset of Dysgeusia Due to Anti-cancer Drug Treatment | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Biological and Pharmaceutical Bulletin | 6. 最初と最後の頁 114 ~ 117 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b21-00745 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Mitsuboshi S, Niimura T, Kanda M, Ishida S, Zamami Y, Ishizawa K. | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Risk of Hematologic Events With Coadministration of Methotrexate and the Breast Cancer Resistance Protein Inhibitor Febuxostat | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Annals of Pharmacotherapy | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/10600280211055794 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Zamami Y, Hamano H, Niimura T, Aizawa F, Yagi K, Goda M, Izawa-Ishizawa Y, Ishizawa K. | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 Drug-Repositioning Approaches Based on Medical and Life Science Databases | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Frontiers in Pharmacology | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphar.2021.752174 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Uchida M, Ushio S, Niimura T, Takechi K, Kawazoe H, Hidaka N, Tanaka A, Araki H, Zamami Y, Ishizawa K, Kitamura Y, Sendou T, Kawasaki H, Namba H, Shibata K, Tanaka M, Takatori S. | 4. 巻 45 |
| 2. 論文標題 Renin-Angiotensin-Aldosterone System Inhibitors Prevent the Onset of Oxaliplatin-Induced Peripheral Neuropathy: A Retrospective Multicenter Study and in Vitro Evaluation | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Biological and Pharmaceutical Bulletin | 6. 最初と最後の頁 226 ~ 234 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b21-00852 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Chuma M, Nakamoto A, Bando T, Niimura T, Kondo Y, Hamano H, Okada N, Asada M, Zamami Y, Takechi K, Goda M, Miyata K, Yagi K, Yoshioka T, Izawa-Ishizawa Y, Yanagawa H, Tasaki Y, Ishizawa K. | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Association Between Statin Use and Daptomycin-related Musculoskeletal Adverse Events: A Mixed Approach Combining a Meta-analysis and a Disproportionality Analysis | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Clinical Infectious Diseases | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cid/ciac128 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Sakurada T, Nokihara H, Koga T, Zamami Y, Goda M, Yagi K, Hamano H, Aizawa F, Ogino H, Sato S, Kirino Y, Goto H, Nishioka Y, Ishizawa K. | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Prevention of Pemetrexed-Induced Rash Using Low-Dose Corticosteroids: A Phase II Study | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 The Oncologist | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oncolo/oyab077 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

[学会発表] 計87件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 運天 拓人, 濱野 裕章, 新村 貴博, 内田 和志, 友近 七海, 宮田 晃志, 石田 俊介, 合田 光寛, 八木 健太, 相澤 風花, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 免疫チェックポイント阻害剤関連心筋炎の解析に適した実験的病態モデルの開発 |
| 3. 学会等名 第141回 日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 宮田 晃志, 石澤 有紀, 近藤 正輝, 辻中 海斗, 大峯 航平, 西 穂香, 糸数 柗人, 新村 貴博, 相澤 風花, 濱野 裕章, 八木 健太, 座間味 義人, 合田 光寛, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 フルオロキノロン系抗菌薬による血管毒性の病態解明 |
| 3. 学会等名 第141回 日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 相澤風花, 森山大嗣, 岡林亜美, 高橋志門, 園田悠平, 新村貴博, 合田光寛, 八木健太, 石澤有紀, 座間味義人, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 Pharmacist-Scientistが目指すDry&Wet研究によるエビデンスの創出 |
| 3. 学会等名 第15回日本緩和医療薬学会年会 年会企画シンポジウム1 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 運天 拓人, 濱野 裕章, 新村 貴博, 友近 七海, 西内 栞, 合田 光寛, 八木 健太, 相澤 風花, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 大規模医療情報データベースを用いた ドキソルピシン誘発性心筋症に対する予防薬の開発 |
| 3. 学会等名 医療薬学フォーラム2022/第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 國木 悠理香, 八木 健太, 高岡 麻佑, 岡本 尚大, 濱野 裕章, 合田 光寛, 新村 貴博, 相澤 風花, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 慢性骨髄性白血病に対するBCR-ABL阻害剤とALDH阻害剤併用による抗腫瘍効果増強の検討 |
| 3. 学会等名 医療薬学フォーラム2022/第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大峯 航平, 近藤 正輝, 合田 光寛, 西 穂香, 宮田 晃志, 辻中 海斗, 濱野 裕章, 相澤 風花, 八木 健太, 座間味 義人, 石澤 啓介, 石澤 有紀 |
| 2. 発表標題 大動脈瘤、解離に対する杜仲葉エキスの抑制効果の検討 |
| 3. 学会等名 医療薬学フォーラム2022/第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 阪本 淑華, 友近 七海, 新村 貴博, 合田 光寛, 相澤 風花, 八木 健太, 西内 栞, 生田 賢治, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 医療ビッグデータを活用したスニチニブ誘発心毒性に対する予防薬の探索 |
| 3. 学会等名 医療薬学フォーラム2022/第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 八木 健太, 高岡 麻佑, 丸尾 陽成, 相澤 風花, 新村 貴博, 石澤 有紀, 濱野 裕章, 合田 光寛, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 プロトンポンプ阻害剤、ポノプラザンが抗VEGF療法に与える影響 |
| 3. 学会等名 医療薬学フォーラム2022/第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 糸林 小友理, 合田 光寛, 吉田 愛美, 杉本 祐悟, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 濱野 裕章, 岡田 直人, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 抗がん剤誘発急性腎障害に対するバルプロ酸ナトリウムの影響 |
| 3. 学会等名 医療薬学フォーラム2022/第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 合田 光寛, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 吉田 愛美, 糸林 小友理, 新村 貴博, 櫻田 巧, 小川 敦, 岡田 直人, 相澤風花, 八木健太, 濱野裕章, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 遺伝子発現および大規模医療情報データベースを活用したシスプラチン関連腎障害に対する予防薬の探索 |
| 3. 学会等名 第51回 日本心脈管作動物質学会学術集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 宮田 晃志, 石澤 有紀, 辻中 海斗, 大峯 航平, 西 穂香, 系数 柊人, 新村 貴博, 近藤 正輝, 相澤 風花, 濱野 裕章, 八木 健太, 座間味 義人, 合田 光寛, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 薬物に関連した動脈瘤・動脈解離：医療ビッグデータ解析と基礎薬理学実験によるアプローチ |
| 3. 学会等名 第29回 市大フォーラム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉岡 俊彦, 合田 光寛, 糸林 小友理, 杉本 祐悟, 石田 朋奈, 神田 将哉, 小川 敦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 新村 貴博, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 薬剤性腎障害予防を志向したドラッグリポジショニング研究 |
| 3. 学会等名 第31回 霧島神経薬理フォーラム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 國木 悠理香, 八木 健太, 高岡 麻佑, 岡本 尚大, 濱野 裕章, 相澤 風花, 新村 貴博, 合田 光寛, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 慢性骨髄性白血病に対する既存承認薬とALDH阻害剤併用の有効性 |
| 3. 学会等名 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 糸林 小友理, 合田 光寛, 杉本 祐悟, 石田朋奈, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 小川 敦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 新村 貴博, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 シスプラチン誘発急性腎障害に対するバルプロ酸ナトリウムの予防効果 |
| 3. 学会等名 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 宮田 晃志, 石澤 有紀, 辻中 海斗, 大峯 航平, 西 穂香, 系数 柊人, 新村 貴博, 近藤 正輝, 相澤 風花, 濱野 裕章, 八木 健太, 座間味 義人, 合田 光寛, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 フルオロキノロン系抗菌薬に関連した動脈瘤・解離の病態解明 |
| 3. 学会等名 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 坂東 貴司, 中馬 真幸, 合田 光寛, 谷 友歩, 國木 悠理香, 小川 敦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 新村 貴博, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 医療ビッグデータ解析および基礎研究を融合したバンコマイシン関連腎障害に対する予防薬探索 |
| 3. 学会等名 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 神田 将哉, 合田 光寛, 吉岡 俊彦, 小川 敦, 石田 俊介, 新村 貴博, 相澤 風花, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 医療ビッグデータ解析を基盤としたシスプラチン誘発腎障害予防薬の探索 |
| 3. 学会等名 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 相澤 風花, 岡林 亜美, 森山 大嗣, 藺田 悠平, 高橋 志門, 新田 綾香, 合田 光寛, 八木 健太, 新村 貴博, 座間味 義人, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 スタチンの pleiotropic effects: 抗がん剤誘発性末梢神経障害抑制作用の検討 |
| 3. 学会等名 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山川 裕介, 八木 健太, 吉岡 俊彦, 佐藤 真希, 丸尾 陽成, 宮田 晃志, 相澤 風花, 國木 悠理香, 新村 貴博, 坂口 暁, 石澤 有紀, 合田 光寛, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 慢性骨髄性白血病患者における Bcr-Abl 阻害剤治療期間とアルコール摂取の関連 |
| 3. 学会等名 第32回日本医療薬学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 八木 健太, 丸尾 陽成, 石田 俊介, 鍛冶園 誠, 相澤 風花, 新村 貴博, 石澤 有紀, 濱野 裕章, 合田 光寛, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 ペバシズマブ治療継続にプロトンポンプ阻害剤、ポノプラザンが与える影響 |
| 3. 学会等名 第32回日本医療薬学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 棕田 千晶, 小川 敦, 合田 光寛, 吉岡 俊彦, 新村 貴博, 牛尾 聡一郎, 江角 悟, 岡田 直人, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 有害事象自発報告データベースを用いたダントロレン誘発高カリウム血症に影響を与える因子の解析 |
| 3. 学会等名 第32回日本医療薬学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡田 直人, 中村 信元, 清水 太郎, 安藤 英紀, 相澤 風花, 新村 貴博, 八木 健太, 合田 光寛, 石田 竜弘, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 免疫不全リスクを有する患者における新型コロナワクチンによる抗体獲得能に影響を与える因子の検討 |
| 3. 学会等名 第32回日本医療薬学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 坂東 寛, 合田 光寛, 新田 侑生, 中馬 真幸, 小川 敦, 櫻田 巧, 桐野 靖, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 医療ビッグデータを用いたラモトリギン皮膚障害リスクに影響する併用薬の探索と多施設診療情報による検証 |
| 3. 学会等名 第32回日本医療薬学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 相澤 風花, 岡林 亜美, 森山 大嗣, 藺田 悠平, 高橋 志門, 新村 貴博, 合田 光寛, 座間味 義人, 吉岡 俊彦, 八木 健太, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 臨床薬理の視点で実践する創薬研究：抗がん剤有害事象をターゲットとしたトランスレーショナルリサーチ |
| 3. 学会等名 第32回日本医療薬学会年会 シンポジウム55 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 合田 光寛, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 新村 貴博, 櫻田 巧, 小川 敦, 相澤 風花, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 薬物療法の最適化を目指すリアルワールドデータ駆動型臨床薬理学研究 |
| 3. 学会等名 第32回日本医療薬学会年会 シンポジウム32 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡田 直人, 合田 光寛, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 【How to 編】臨床研究はじめの一步：研究の「種」の見つけ方と育て方 |
| 3. 学会等名 第32回日本医療薬学会年会 シンポジウム3 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 阪本 淑華, 友近 七海, 新村 貴博, 合田 光寛, 相澤 風花, 八木 健太, 西内 栞, 生田 賢治, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 スニチニブ誘発心毒性に対する新規予防薬候補の有効性の検討 |
| 3. 学会等名 第16回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 安藤 里英, 八木 健太, 岡本 尚大, 高岡 麻佑, 相澤 風花, 新村 貴博, 石澤 有紀, 合田 光寛, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 ボノブラザン、プロトンポンプ阻害剤ががん細胞の VEGF 発現に与える影響の違い |
| 3. 学会等名 第16回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 運天 拡人, 濱野 裕章, 新村 貴博, 内田 和志, 友近 七海, 宮田 晃志, 石田 俊介, 合田 光寛, 八木 健太, 相澤 風花, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 PD-1ノックアウトマウスを用いた免疫チェックポイント阻害剤関連心筋炎の病態モデル開発 |
| 3. 学会等名 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大峯 航平, 石澤 有紀, 辻中 海斗, 新村 貴博, 吉岡 俊彦, 合田 光寛, 近藤 正輝, 西 穂香, 宮田 晃志, 濱野 裕章, 相澤 風花, 八木 健太, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 血管新生阻害剤による大動脈解離発症リスクの検証 |
| 3. 学会等名 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 阪本 淑華, 友近 七海, 新村 貴博, 合田 光寛, 相澤 風花, 八木 健太, 西内 菜, 生田 賢治, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 有害事象自発報告データベースを活用したTKI誘発心毒性に対する予防薬の探索 |
| 3. 学会等名 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 系林 小友理, 合田 光寛, 杉本 祐悟, 石田 朋奈, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 小川 敦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 新村 貴博, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 バルプロ酸ナトリウムのシスプラチン誘発腎障害に対する予防効果 |
| 3. 学会等名 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 國木 悠理香, 八木 健太, 高岡 麻佑, 岡本 尚大, 濱野 裕章, 相澤 風花, 新村 貴博, 石澤 有紀, 合田 光寛, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 慢性骨髄性白血病に対するALDH阻害剤の有効性の検討 |
| 3. 学会等名 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西 穂香, 石澤 有紀, 辻中 海斗, 大峯 航平, 糸数 柊人, 宮田 晃志, 近藤 正輝, 合田 光寛, 新村 貴博, 濱野 裕章, 相澤 風花, 八木 健太, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 抗悪性腫瘍薬スニチニブが大動脈解離発症に及ぼす影響 |
| 3. 学会等名 第142回 日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西内 菜, 合田 光寛, 新村 貴博, 座間味 義人, 八木 健太, 相澤 風花, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 ビッグデータ解析を基盤としたドキソルピシン誘発心筋炎の予防薬探索 |
| 3. 学会等名 第142回 日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉岡 俊彦, 合田 光寛, 糸林 小友理, 杉本 祐悟, 石田 朋奈, 神田 将哉, 小川 敦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 新村 貴博, 八木 健太, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 抗がん剤誘発急性腎障害に対するバルプロ酸ナトリウムの効果 |
| 3. 学会等名 第142回 日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kaito Tsujinaka, Yuki Izawa-Ishizawa, Kohei Omine, Honoka Nishi, Toshihiko Yoshioka, Masateru Kondo, Syuto Itokazu, Takahiro Niimura, Fuka Aizawa, Kenta Yagi, Mitsuhiro Goda, Keisuke Ishizawa. |
| 2. 発表標題 Vascular endothelial growth factor inhibitor increases the incidence of aortic dissection in mice. |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学会学術総会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Fuka Aizawa, Ami Okabayashi, Daishi Moriyama, Yuhei Sonoda, Shimon Takahashi, Mitsuhiro Goda, Kenta Yagi, Takahiro Niimura, Yoshito Zamami, Yuki Izawa-Ishizawa, Keisuke Ishizawa. |
| 2. 発表標題 Possibilities of statins in oxaliplatin-induced chronic peripheral neuropathy. |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学会学術総会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takahiro Niimura, Hiroto Unten, Hirofumi Hamano, Kazushi Utida, Nanami Tomotika, Koji Miyata, Mitsuhiro Goda, Kenta Yagi, Fuka Aizawa, Yuki Izawa-Ishizawa, Yoshito Zamami, Keisuke Ishizawa. |
| 2. 発表標題 Development of a novel mouse model of immune checkpoint inhibitor-associated myocarditis |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学会学術総会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮田 晃志, 石澤 有紀, 濱野 裕章, 新村 貴博, 相澤 風花, 八木 健太, 座間味 義人, 合田 光寛, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 ホスホジエステラーゼ5阻害剤に関連した致死的な血管毒性 |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学学術総会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 坂口 暁, 佐藤 康敬, 石田 光代, 前田 和輝, 二見 明香里, 八木 健太, 沖 良祐, 藤田 浩司, 楊河 宏章, 和泉 唯信, 梶 龍兒, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 高用量メチルコバラミンの筋萎縮性側索硬化症に対する第III相試験の被験者及び家族におけるアンケート調査 |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学学術総会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 Significance of Pharmacology in Clinical Practice - Learning the Basics and Applying the Basics. |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学学術総会 日本臨床薬理学会共催シンポジウム(シンポジウム41) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 合田 光寛, 相澤 風花, 八木 健太, 新村 貴博, 櫻田 巧, 小川 敦, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 医療ビッグデータ解析と基礎研究を融合した研究手法によるハイブリッド創薬 |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学学術総会 シンポジウム41 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 Data-driven pharmacological research for cardiovascular disease associated with cancer chemotherapy. |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学学術総会 シンポジウム33 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 合田 光寛, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 相澤 風花, 櫻田 巧, 小川 敦, 新村 貴博, 八木 健太, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 がん薬物療法に伴う腎障害とその予防 |
| 3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学学術総会 シンポジウム6 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 相澤風花, 八木健太, 新村貴博, 合田光寛, 座間味義人, 石澤有紀, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 データサイエンス×基礎によるCIPN支持療法薬の創出 |
| 3. 学会等名 痛み研究会2022 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 八木健太, 相澤風花, 新村貴博, 石澤有紀, 濱野裕章, 合田光寛, 座間味義人, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 VEGF発現にプロトンポンプ阻害剤が与える影響 |
| 3. 学会等名 第32回日本循環薬理学会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 新村貴博, 運天拓人, 濱野裕章, 内田和志, 宮田晃志, 合田光寛, 八木健太, 相澤風花, 石澤有紀, 座間味義人, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 PD-1ノックアウトマウスを用いた免疫チェックポイント阻害剤関連心筋炎の 新規病態モデル開発 |
| 3. 学会等名 第32回日本循環薬理学会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 座間味義人, 濱野裕章, 牛尾聡一郎, 新村貴博, 合田光寛, 石澤有紀, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 大規模医療情報データベースを用いた薬剤性心毒性の予防法の開発 |
| 3. 学会等名 日本薬学会第143年会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 新村貴博, 運天拓人, 濱野裕章, 内田和志, 友近七海, 宮田晃志, 合田光寛, 八木健太, 相澤風花, 石澤有紀, 座間味義人, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 遺伝子改変マウスを用いた免疫チェックポイント阻害剤関連心筋炎の病態モデル開発 |
| 3. 学会等名 日本薬学会第143年会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 合田光寛, 糸林小友理, 神田将哉, 吉岡俊彦, 杉本祐悟, 石田朋奈, 相澤風花, 新村貴博, 八木健太, 石澤有紀, 櫻田巧, 桐野靖, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 バルプロ酸ナトリウムのシスプラチン誘発腎障害に対する予防効果の作用機序解明 |
| 3. 学会等名 日本薬学会第143年会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 相澤風花, 岡林亜美, 森山大嗣, 八木健太, 合田光寛, 新田綾香, 新村貴博, 石澤有紀, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 抗がん剤誘発性末梢神経障害克服に向けたスタチン系薬剤による有効性検討 |
| 3. 学会等名 日本薬学会第143年会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮田晃志, 石澤有紀, 濱野裕章, 新村貴博, 相澤風花, 八木健太, 座間味義人, 合田光寛, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 ホスホジエステラーゼ5阻害剤に関連した動脈疾患 |
| 3. 学会等名 日本薬学会第143年会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 八木健太, 高岡麻佑, 吉武愛哉, 丸尾陽成, 安藤里英, 相澤風花, 新村貴博, 石澤有紀, 濱野裕章, 合田光寛, 座間味義人, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 プロトンポンプ阻害剤およびボノプラザンがVEGF発現に与える影響 |
| 3. 学会等名 日本薬学会第143年会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 谷友歩, 中馬真幸, 合田光寛, 坂東貴司, 近藤正輝, 國木悠理香, 濱野裕章, 新村貴博, 岡田直人, 相澤風花, 八木健太, 石澤有紀, 座間味義人, 石澤啓介 |
| 2. 発表標題 大規模医療情報および遺伝子発現データベースを活用したバンコマイシン関連腎障害に対する予防薬の探索とその有用性の検討 |
| 3. 学会等名 第139回日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 梶本 春奈, 森山 大嗣, 相澤 風花, 新村 貴博, 座間味 義人, 合田 光寛, 八木 健太, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 オキサリプラチン誘発末梢神経障害に対するスタチン系薬剤の予防効果 |
| 3. 学会等名 第139回日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 辻中 海斗, 石澤 有紀, 新村 貴博, 吉岡 俊彦, 合田 光寛, 近藤 正輝, 大峯 航平, 西 穂果, 宮田 晃志, 濱野 裕章, 相澤 風花, 八木 健太, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 血管新生阻害剤における大動脈解離発症の関連要因解明 |
| 3. 学会等名 第50回日本心脈管作動物質学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡田 直人, 中本 亜樹, 泉 侑希, 中馬 真幸, 合田 光寛, 八木 健太, 相澤 風花, 濱野 裕章, 座間味 義人, 東 桃代, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 タゾバクタム・ピペラシリン併用時のバンコマイシン誘発腎障害は血中濃度時間曲線下面積を指標とした TDMによって回避可能か? |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 辻中 海斗, 岡田 直人, 藤原 範子, 合田 光寛, 八木 健太, 相澤 風花, 濱野 裕章, 櫻田 巧, 桐野 靖, 座間味 義人, 東 桃代, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 医療従事者におけるインフルエンザ暴露後予防目的におけるオセルタミビルのアドヒアランス解析 |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 相澤 風花, 梶本 春奈, 森山 大嗣, 新村 貴博, 合田 光寛, 新田 綾香, 高橋 志門, 濱野 裕章, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 医療ビッグデータを基盤とした迅速かつ安全ながん支持療法の開発 |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会シンポジウム9 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 岡田 直人, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 透析・腎移植患者におけるがん免疫療法の最新知見 |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会シンポジウム17 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 八木 健太, 合田 光寛, 濱野 裕章, 坂口 暁, 楊河 宏章, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 臨床研究における倫理指針と個人情報の基礎知識 |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会シンポジウム24 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 座間味 義人, 新村 貴博, 濱野 裕章, 合田 光寛, 相澤 風花, 八木 健太, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 リアルワールドデータを活用したドラッグリポジショニング研究 |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会シンポジウム40 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 濱野 裕章, 座間味 義人, 合田 光寛, 相澤 風花, 八木 健太, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 データサイエンスと基礎研究手法の融合 |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会シンポジウム41 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中馬 真幸, 中本 亜樹, 坂東 貴司, 新村 貴博, 岡田 直人, 相澤 風花, 濱野 裕章, 八木 健太, 合田 光寛, 座間味 義人, 石澤 啓介, 田崎 嘉一 |
| 2. 発表標題 メタアナリシスとデータベース解析の融合によるハイインパクトエビデンスの創出 |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会シンポジウム41 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 神田 将哉, 合田 光寛, 吉岡 俊彦, 吉田 愛美, 新村 貴博, 櫻田 巧, 小川 敦, 岡田 直人, 相澤 風花, 座間味 義人, 八木 健太, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 抗がん剤副作用予防のための大規模医療情報データベース解析を活用したリバーストランスレーショナルリサーチ |
| 3. 学会等名 第31回日本医療薬学会年会シンポジウム58 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Hirofumi Hamano, Yosito Zamami, Kazushi Utida, Koji Miyata, Hiroya Miwa, Akito Nakamura, Kenji Ikuta, Yuki Izumi, Mituhiro Gouda, Keisuke Ishizawa |
| 2. 発表標題 Development of an Experimental Disease Model Suitable for the Analysis of Cancer Immunotherapy-Associated Myocarditis |
| 3. 学会等名 第15回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Hiroto Unten, Hirofumi Hamano, Takahiro Niimura, Nanami Tomotika, Shiori Nishiuti, Mituhiro Gouda, Kenta Yagi, Fuka Aizawa, Yoshito Zamami, Keisuke Ishizawa |
| 2. 発表標題 Exploration of prophylactic drugs against doxorubicin-induced cardiomyopathy using largescale medical databases |
| 3. 学会等名 第15回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 高橋 志門, 武智 研志, 定作 奈津美, 濱野 裕章, 相澤 風花, 八木 健太, 合田 光寛, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 大規模医療情報データベースを用いたドラッグリポジショニングによるパラシクロピルの抗てんかん作用の検討 |
| 3. 学会等名 第60回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 梶本 春奈, 森山 大嗣, 相澤 風花, 新村 貴博, 座間味 義人, 合田 光寛, 八木 健太, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 FAERS解析を活用したオキサリプラチン誘発末梢神経障害に対する予防薬の検討 |
| 3. 学会等名 第60回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 谷 友歩, 中馬 真幸, 合田 光寛, 坂東 貴司, 近藤 正輝, 國木 悠理香, 濱野 裕章, 新村 貴博, 岡田 直人, 相澤 風花, 八木 健太 |
| 2. 発表標題 ビッグデータ解析を活用したバンコマイシン関連腎障害に対する予防薬の探索とその有用性の検討 |
| 3. 学会等名 第60回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉田 愛美, 合田 光寛, 杉本 祐悟, 八木田 ひかり, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 櫻田 巧, 石澤 有紀, 相澤 風花, 濱野 裕章, 岡田 直人, 八木 健太, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 シスプラチン誘発腎障害に対する新規予防薬の探索 |
| 3. 学会等名 第60回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉岡 俊彦, 合田 光寛, 神田 将哉, 吉田 愛美, 糸林 小友理, 杉本 祐悟, 石澤 有紀, 八木 健太, 相澤 風花, 濱野 裕章, 岡田 直人, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 シスプラチン誘発腎障害に対する杜仲葉エキスの効果 |
| 3. 学会等名 第60回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 合田 光寛, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 吉田 愛美, 新村 貴博, 櫻田 巧, 小川 敦, 岡田 直人, 相澤 風花, 八木 健太, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 大規模医療情報データベースを活用した抗がん剤副作用に対する 予防法の確立 |
| 3. 学会等名 第60回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 シンポジウム2 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡田 直人, 中本 亜樹, 泉 侑希, 中馬 真幸, 合田 光寛, 八木 健太, 相澤 風花, 濱野 裕章, 座間味 義人, 東 桃代, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 タゾバクタム・ピペラシリン併用時における血中濃度時間曲線下面積に基づくバンコマイシン誘発腎障害の評価 |
| 3. 学会等名 第15回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2021 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大峯 航平, 近藤 正輝, 合田 光寛, 西 穂香, 宮田 晃志, 辻中 海斗, 濱野 裕章, 相澤 風花, 八木 健太, 座間味 義人, 石澤 啓介, 石澤 有紀 |
| 2. 発表標題 杜仲茶エキスによる大動脈疾患発症抑制効果の検討 |
| 3. 学会等名 第140回日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉田 愛美, 合田 光寛, 杉本 祐悟, 八木田 ひかり, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 濱野 裕章, 岡田 直人, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 シスプラチン誘発腎障害に対する新規予防候補薬の効果 |
| 3. 学会等名 第140回日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 安藤 里英, 八木 健太, 岡本 尚大, 相澤 風花, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 合田 光寛, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 ボノブラザンががん細胞のVEGF発現に与える影響に関する検討 |
| 3. 学会等名 第140回日本薬理学会近畿部会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮田 晃志, 坂東 寛, 合田 光寛, 中馬 真幸, 新田 侑生, 田崎 嘉一, 吉岡 俊彦, 小川 淳, 座間味 義人, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 ラモトリギンの皮膚障害リスクに影響する因子の探索 |
| 3. 学会等名 第42回日本臨床薬理学会学術総会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西内 栞, 斎藤 広海, 新村 貴博, 座間味 義人, 合田 光寛, 八木 健太, 相澤 風花, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 ドキシルピシン誘発心筋症に対する予防薬探索を目的としたドラッグリポジショニング研究 |
| 3. 学会等名 第42回日本臨床薬理学会学術総会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 國木 悠理香, 八木 健太, 吉田 莉奈, 岡本 尚大, 安藤 里英, 山川 裕介, 濱野 裕章, 合田 光寛, 新村 貴博, 相澤 風花, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 慢性骨髄性白血病に対するBCR-ABL阻害剤とALDH阻害剤併用による抗腫瘍効果 |
| 3. 学会等名 第95回日本薬理学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 阪本 淑華, 友近 七海, 濱野 裕章, 合田 光寛, 新村 貴博, 相澤 風花, 八木 健太, 仲村 明人, 西内 栞, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 大規模医療情報データベースを用いたスニチニブ誘発心不全に対する予防薬の探索 |
| 3. 学会等名 第95回日本薬理学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 宮田 晃志, 石澤 有紀, 近藤 正輝, 辻中 海斗, 大峯 航平, 西 穂香, 相澤 風花, 濱野 裕章, 八木 健太, 座間味 義人, 合田 光寛, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 杜仲葉エキスによる大動脈解離発症抑制効果の検討 |
| 3. 学会等名 第95回日本薬理学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉岡 俊彦, 合田 光寛, 神田 将哉, 吉田 愛美, 糸林 小友理, 杉本 祐悟, 石澤 有紀, 八木 健太, 相澤 風花, 濱野 裕章, 岡田 直人, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 シスプラチン誘発急性腎障害に対するバルプロ酸ナトリウムの影響 |
| 3. 学会等名 第95回日本薬理学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 相澤 風花, 梶本 春奈, 森山 大嗣, 岡林 亜美, 合田 光寛, 濱野 裕章, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 リアルワールドデータに基づく抗がん剤支持療法の開発; スタチン系薬剤による末梢神経障害治療および予防効果の検証 |
| 3. 学会等名 第95回日本薬理学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 糸林 小友理, 合田 光寛, 吉田 愛美, 杉本 祐悟, 神田 将哉, 吉岡 俊彦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 濱野 裕章, 岡田 直人, 八木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 シスプラチン誘発腎障害に対するバルプロ酸ナトリウムの有効性の検証 |
| 3. 学会等名 日本薬学会第142年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 安藤 里英, 八木 健太, 岡本 尚大, 高岡 麻佑, 相澤 風花, 濱野 裕章, 石澤 有紀, 合田 光寛, 座間味 義人, 石澤 啓介 |
| 2. 発表標題 各種プロトンポンプ阻害剤のがん細胞におけるVEGF発現に与える影響 |
| 3. 学会等名 日本薬学会第142年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野・徳島大学病院薬剤部ホームページ
https://square.umin.ac.jp/pharm_tks-u_hosp/index.html

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 八木 健太 (YAGI Kenta) (10869085) | 徳島大学・病院・特任助教 (16101) | |
| 研究分担者 | 合田 光寛 (GODA Mitsuhiro) (40585965) | 徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・准教授 (16101) | |
| 研究分担者 | 石澤 有紀 (IZAWA-ISHIZAWA Yuki) (40610192) | 徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・徳島大学専門 研究員 (16101) | |
| 研究分担者 | 新村 貴博 (NIIMURA Takahiro) (50910014) | 徳島大学・病院・特任助教 (16101) | |
| 研究分担者 | 相澤 風花 (AIZAWA Fuka) (80848367) | 徳島大学・病院・特任助教 (16101) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 座間味 義人 (ZAMAMI Yoshito) (70550250) | 岡山大学・病院・教授 (15301) | |
| 研究分担者 | 濱野 裕章 (HAMANO Hirofumi) (10847289) | 徳島大学・病院・特任助教 (16101) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |